

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	生徒一人一人の夢や志の実現に向け、横断的・総合的な学習等を通して、課題の発見と解決に必要な知識及び技能など確かな学力を身に付けるとともに、魅力ある教育活動により豊かな人間性を育み、新しい時代を逞しく生き抜くための主体的・協働的行動ができる人間を育成する。	学校整理番号	24		
(2) 現状と課題	将来の自分に夢を持って真剣に進路を考え、学校生活を有意義に送ろうと考えている生徒が多い。しかし、基礎学力が定着していない生徒や学習習慣の欠如、基本的生活習慣が身につけていない生徒も見られる。そのため、国・数・英の少人数指導や学び直しの時間設定による基礎学力の定着、学習習慣や生活習慣の確立に向けた指導を行うとともに、教職員の連携により、学校行事や部活動等による体験的な活動、キャリア教育、資格取得を充実させ、一人ひとりの意識を高め、自己の進路志望実現に向けた取り組みを目指していく。	学校名	浪岡高等学校		
(3) 重点目標	1 基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	全日制の課程	本校		
	2 規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。	自己評価実施日	令和4年2月8日(火)		
	3 自己と社会との関りについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。	学校関係者評価実施日	令和4年2月22日(火)		
	4 自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち「生きる力」を育む人間を育成する。	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成			
	5 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実を図る。			学校評議員4名	
	6 家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち社会的に自立できる人間を育成する。				
(4) 結果の公表	・学校ホームページで公表する。				

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・ 学習指導の充実 生徒個々の学習到達度を把握しながら、学ぶ喜びを実感させ、学習内容が定着するようわかる授業展開の実践に努める。	・国・数・英や商業での少人数授業を実施し、一人ひとりに目を向け理解度を高めた。 ・工夫しながら対話的な授業を多く取り入れ、個々が活動する場を多く展開した。 ・ICTを活用しわかる授業を推進した。	B	・個々の習熟度に合わせた指導ができていたのはとても良い。 ・対話的で個々が活動する授業展開を行っているのは良い。 ・今後ICTの活用は必要だと考えている。	・生徒の確かな学力を付けるため、少人数授業をこれからも行って行きたい。 ・対話的な学習により、主体的に活動する場面を作る授業展開を行う。 ・一人一台のタブレットを用いて、ICT活用の場を増やしていく。
2	規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。	・ 生徒指導の充実 生徒一人一人が、心豊かな学校生活を送ることができるよう生徒理解を深め、心の結びつきを基調とした生徒指導に努める。	・登校指導や挨拶運動を行い、日常生活指導を充実させ、規範意識の基礎を培った。 ・生徒会中心のいじめ防止活動を行い、クラスごとの標語を決め、意識を高めた。 ・行事では個々の役割を与え、活躍する場を作り、活動させることにより責任感を高めた。 ・面談週間を活用し、人間関係を構築し生徒一人ひとりの理解を深めた。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門機関を活用し、多様な生徒への支援を行った。	B	・挨拶は社会に出てからその大切さがわかる。高校時代に身につけて欲しい。 ・いじめに関して、生徒中心で活動しているのは良い取組である。相手の気持ちを考えて行動できる生徒を育成して欲しい。 学校行事等で、個々に役割を持たせて責任感を高めている取組はとても良い。	・朝の挨拶運動や日常生活の中で生徒との人間関係を築き、基本的生活習慣や規範意識の涵養に努めていく。 ・生徒会やホームルームの中で、生徒どうしの交流を深め、人間関係を構築し、自他を愛する心を育み、いじめの防止への意識を高めていく。 ・いじめ防止対策委員と連携しながら、いじめ防止に努める。 ・学校行事等に積極的に取り組ませ、主体性・協働性・社会性を身につけさせていく。 ・外部の専門機関と連携し、生徒・保護者への支援体制を継続する。

3	自己と社会との関りについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。	<p>・キャリア教育の推進 生徒の進路志望達成のため、個々の生徒の資質・能力・適性の伸長を図りながら、計画的・組織的・継続的な進路指導を行い、生徒の学びと自己の将来とのつながりを見通しながら社会的・職業的自立ができるようキャリア教育の推進に努める。</p>	<p>・3年間を見据えた、学年ごとや個別ごとに進路ガイダンスを実施し、一人ひとりが自分の進路について考える機会を与え、意識を高めた。 ・企業訪問やインターンシップの実施により、勤労観・職業観を磨く機会を作り、キャリアの育成を行った。 ・地域の有識者を活用し、講演会や実践的な模擬面接を行い、就職への心構えを育成した。 ・各種資格試験の実施により、キャリアを充実させた。</p>	A	<p>・早くから自分の希望職種を見つけることは生徒達にとって幸せなことだと思う。 ・コロナ禍の中でも、インターンシップや進路講演会など、いろいろな体験をさせて欲しい。 ・進路指導等に地域の有識者を活用しているのはとても良いことだ。</p>	<p>・総合的探究の時間等を活用し、一人ひとりの能力や適性を見だし、3年間を見据えた進路指導を行う。 ・インターンシップや進路ガイダンスなどを通して、勤労観・職業観を磨き、本校独自のキャリア教育を推進する。 ・各種資格試験を計画し受検機会を確保するとともに、対策講習などを行い受検を促し、キャリアの充実に向け、機会を整備していく。</p>
4	自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち「生きる力」を育む人間を育成する。	<p>・健康・安全指導及び道徳教育の充実 生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる環境づくりに努めるとともに、個々の生徒が自ら健康・体力の増進を図り、安全な生活を営むことができる能力や態度の育成に努める。また、生徒が一人の人間として道徳的な判断力・心情・実践的な意欲と行動ができるよう教育活動全体を通じて道徳教育の充実を努める。</p>	<p>・新体力テストを実施し、自らの健康・体力を向上させる意識を培った。 ・交通安全教室・防災訓練を通して、命を守るためにすべき行動を考える機会とした。 ・性に関する講演会・薬物乱用防止教室を通して、命の大切さや自他を愛する心を育成した。 ・いじめ研修会を実施し、いじめについて考え、防止に向けた心の育成を行った。 ・保健だよりの活用により、安全・健康についてすべき行動を育成した。 ・学校行事を通して、他と協力することや相手を思いやる大切さについて、考え行動できるよう育成した。やればできるという意識を育み、生きる力を育成した。</p>	B	<p>・他者と協力することや相手を思いやる大切さについて、考え行動できるよう取り組んでいるのはとても良い。 ・授業や学校行事などで道徳教育を充実させて欲しい。</p>	<p>・良好な人間関係を築くためのGWTを、感染症対策しながら内容の変更等を含めて工夫して実施する。 ・学校行事等で仲間とともに協力して活動する場面を作り、協働性・社会性を身に付けさせ、相手を思いやる心を育成育成する。 ・授業や学校行事等で道徳教育を意識した活動を行っていく。 ・感染症対策をしながら、高大連携キャリアサポートを実施することにより、生徒一人ひとりの進路目標について真剣に考える機会を設定、意識の高揚を図る。</p>
5	学校の教育課題解決のための実践的研究の充実を図る。	<p>・研修の充実と教職員の資質向上 教育活動の充実を図るため、教職員が自らの資質を向上させようとする機運を醸成し、校内・外における研修に積極的に参加する環境づくりに努める。</p>	<p>・外部の教育関係研修会を活用し校内研修を行い、生徒理解の質を向上させた。 ・講師派遣事業を活用して、授業力向上と改善の手法を学び、教育活動充実に結びつけた。 ・ICT校内研修を繰り返し行い、タブレット活用に向け技能を向上させた。 ・各種研修会への参加を奨励し、自らの資質の向上に努めた。</p>	B	<p>・先生方も研修会を行ったり、外部研修に参加したりして、学びを深め自らの資質向上に励んだり、生徒理解の質を向上させたりしているのは、とても良いことだ。 ・タブレットなどICTの活用機会を増やし、学校教育に生かして欲しい。</p>	<p>・多様な生徒へ対応するために、外部専門機関と連携し、教職員の資質・能力の一層の充実を目指す。 ・ICTの活用を含め、授業力向上と改善のため、研修の機会を確保する。 ・授業アンケート等を活用し、授業改善に向けた対策を行う。</p>
6	家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち社会的に自立できる人間を育成する。	<p>・地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 家庭・地域との連携や積極的な情報発信により、保護者や地域の人々から信頼され、必要とされる開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>・空き缶壁画活動を通して、家庭・地域の協力を得、活動の情報発信により、連携・理解を高めた。 ・探究活動を活用し、地域を知る活動を行い、歴史・文化など郷土への理解を深め、郷土への誇りを持たせた。 ・学校教育活動を学校ホームページや学校だより、YouTube、SNS等を活用して保護者・地域へ積極的に発信した。</p>	A	<p>・空き缶壁画活動は浪岡高校の顔になりました。家庭や地域の協力の下に成り立っていると感じている。地域との連携は今後も行って欲しい。 ・YouTubeやSNSを活用して情報発信をしているのは良いことだ。内容については十分に注意を払って欲しい。</p>	<p>・伝統の空き缶壁画活動を通じて、家庭・地域の理解と協力を得て、活動状況を発信し、さらに関係強化に努める。 ・地域の有識者等を活用し、歴史や文化について知り、郷土に誇りを持ち社会的に自立できる生徒の育成を行う。 ・ボランティア活動等を奨励し、地域に貢献する意識を高める。 ・PTA・後援会・同窓会等と連携し、学校評議員等の意見を集約しながら、より開かれた学校づくりを行う。</p>
(11) 総括	<p>今後も空き缶壁画活動や学校行事、部活動等を通じて生徒の積極的な取り組みを支援し、毎日の挨拶運動を通しての生徒指導、少人数授業による学び直しと基礎学力の定着、インターンシップを含め3年間を見通したキャリア教育を進め、多様化している生徒の理解に基づく一人ひとりの実態に即した進路指導を全教職員一丸となって推進する。ボランティア活動等を通して地域と連携しつながりを大切にした学校づくりを進める。保護者による評価や学校評議員会から見えてくる課題等を整理し、より良い浪岡高校の方向性を探り学校運営に反映させ改善していく。</p>					